

一般質問

掲載の項目を含め13人の議員が34項目の質問を行い、町長の考えをたしました。



再発防止を

副町長問題

人事採用で欠陥はどこに

二次試験に改善の余地がある

質問 副町長の不正事件は、公務員としてあるまじき行為で、町内外において行政に対する信頼を大きく失墜させた。人事採用で、システム上の欠陥はどこにあったのか。

答弁 専門職の第二次試験で、作文試験のテーマの設定時期や情報管理に改善の余地があると考えている。

再発防止と今後の対応は

職員のモラルの向上を図る

質問 再発防止のために、全職員の再教育が必要と考えるが、どうするつもりか。

答弁 今回の事件に限らず、職員のモラルの向上を図るための研修を考えている。

今後の対応として、前副町長の退職金は有るのか無いのか。また、町長自らの処分はどう考えているのか。

前副町長の退職金は支払われなことが確定している。すでに支払われている一般職の時の退職金は、退職手当組合が判決を見て返還請求の有無を判断する。町長としての任命責任もあり、自らの処分は刑が確定した段階で判断したい。

公文書のリサイクルを

再資源化を図る

質問 資源を有効利用するため、廃棄する公文書の再資源化はできないか。

答弁 現在、公文書は、職員が安芸クリーンセンターへ直接搬入し、焼却処分をしている。今後は「地球温暖化対策実行計画」の中でリサイクルを図るため、情報管理を徹底しながら、効率的な方法を研究していく。

地球温暖化対策



再資源化をはかれ



みんなで親しめる里山に

緑の基本計画

里山林の保全を

範囲を決め順次整備

質問 海田町の里山林を、積極的に保全すべき緑地として、早期に位置づけ整備してはどうか。

答弁 本町の総合公園に隣接する里山林は、「緑の基本計画」に保全すべき緑地帯として位置づけている。

今後も整備範囲を決めて広島県の「ひろしまの森づくり事業」を活用しながら順次整備する。

自力で避難できない方への施策を

今年度検討していく

- 質問** 災害時に、自らの身を守る事が困難な高齢者や障害者など、援護が必要な方を適切に避難させる体制の整備が自治体に求められている。本町では、災害弱者への施策について、どのように取り組んでいるのか。
- 答弁** 災害時要援護者の避難支援計画は、県が策定を予定している「避難支援モデルプラン」を参考に、町関係部署、民生委員、社会福祉協議会などと連携して平成二十年度に検討する。



阪神大震災の家屋倒壊現場

災害対策

独居老人への支援を

地域との連携を強化

- 質問** 六十五歳以上の独居老人の把握はできているのか。
- 答弁** 独り暮らしの高齢者世帯の住所を地図に表したものを作成し、緊急通報や災害などに速やかに対応。
- 質問** また、生活支援のアドバイスや自治会、ボランティアとの協力体制、今後の対策はどのようなのか。
- 答弁** 生活支援は、在宅福祉サービスとして「あんしんホットコール」「配食サービス」「訪問事業」などを実施。ボランティアとの協力については、民生委員や自治会の福祉委員に見守りや声かけを行ってもらっている。今後は、今までの事業を継続し地域と一体となった取り組みを強化していく。



高齢者のお宅へ訪問します

高齢者福祉

学校の耐震化を急げ

できるだけ早く取り組む

- 質問** 財政が厳しく耐震化工事が進んでいないが、広島市近郊にも断層があり、いつ大地震が起きても不思議ではない。児童・生徒の安全を守るために、PFIなどさまざまな手法で促進すべきではないか。
- 答弁** PFIなどの手法で既に耐震化を実施している他の自治体の事例を研究し、できるだけ早く取り組む。
- ※PFIとは…Private Finance Initiative(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)の略で、公共施設等の建設・維持管理・運営などを民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法。



耐震化が済んだ東小体育館

地震対策



これは何の部屋かな

中学校給食

自校調理方式の実施を

実施は考えていない

- 質問** 朝食を食べず学校に行き、昼食も菓子パンだけで済ませることは、教育上および健康面でよくないのではないか。
- 答弁** 朝食を抜くことは、学習能力や運動能力に影響を与えたり、イライラしたり、キレやすくなるなど、教育上の問題があるといわれている。
- 質問** また、親に弁当を作ってもらえない子どもの実態をつかんでいるのか。
- 答弁** 学校の売店で継続的にパンを購入している生徒は数名いる。中学校ではミルク給食を実施しているため、自校調理方式による完全給食の実施は考えていない。



元気に遊ぶ東小の子どもたち

発達障害児支援

5歳児検診の導入を

取り組みについて研究する

質問 本町の乳幼児健康診査は、0歳、1歳半、3歳、就

学前検診となっている。

発達障害は5歳程度になると検診で見ることができるので、早期に見し、適切な教育や医療につなげるために、5歳児検診を導入する考えはないか。

答弁 本町の発達障害児支援は、3歳児健康診査の事後指導として、心理士の個別相談や保

育所などでの相談を実施しており、平成二十年度からは、専門医による発達相談も実施していく。

5歳児検診は、軽度の発達障害児の発見に有効であるとの見解もあり、今後取り組みを研究する。

C型肝炎対策

相談窓口の充実を

県保健所などと連携する

質問 今年一月に薬害C型肝炎被害者救済法が成立したが、感染に気づいていない人も

多い。検査を強く呼びかけ、感染者の早期発見に全力をあげるべきと考えるが、海田町におけるC型肝炎の相談窓口はどのようになっているのか。

答弁 平成二十年度以降も健康増進法に基づく肝炎ウイルス検診を継続実施する。

また、専門の講習会に保健師を派遣して人材育成に努めるとともに、県保健所や肝疾患診療連携拠点病院である広島大学病院と連携して、相談体制の充実を図る。



保健センターでも受け付けてます